

「直向きさ」

230513

春季大会を終えて感じたこと。それは、「幸中生の直向きさ(ひたむきさ)」です。昨年秋の新人戦での悔しい思い。それを3年生も顧問の先生方も忘れず、この日のために、7か月以上の期間、ただひたすらに自分たちが為すべきこと、練習に仲間と先生と共に取り組み続けてきたことが結果につながったのだと思います。

・「先生、GWにもっと練習をやりたいです。」と申し出た生徒もいたんですよと教えてくれた顧問の先生。

・新人戦で惨敗だったけれど、あと一步まで詰め寄り、「この子達、本当によくがんばったんですよ。校長先生！」と興奮気味に伝えてくれた部活動指導員のコーチ。

・個人戦では全然勝てないけれど、団体戦ではチームが一丸となって戦っていました。団体戦には、何か見えないつながり、力が働いているんですかね。と話す顧問の先生。

・うちの子たちはよく我慢して、正しく戦いました。大事にしたいです。と悔しそうに話す顧問の先生。

・あのプレーこそが目指していた点の取り方でした。自分たちがやってきた成果を出すことができました。自信になったと思います。と語る顧問の先生。

等々。こんな話が聞けるのは、秋から冬、そして春にかけて地道にこつこつと、真っすぐに練習を重ねてきたらこそだと思います。校歌の4番にも歌われている「直向きに(ひたむきに)」の姿、そのものだと思います。そして、チーム「みんな」乗り越えてきたからこそ、生まれた底力なのだと思います。

期せずして、クレペリン検査の学校全体の傾向として、「幸田中の生徒は、毎年着実に成長する様子が見られ、その成長の度合いは他の学校以上に顕著に表れている」とのことでした。1年生から3年生になるにつれて、育つべき力がしっかりと身につけているという結果は、部活動だけでなく学校での取組全体での、生徒の皆さんの努力と先生方の指導の賜物であると思っています。

自分たちの取り組んできたことが正しく、進むべき道に自信を与えてくれた春季大会になりました。「直向きさ(ひたむきさ)」という幸中生としての誇りをもって、成長していってくれることを願っています。